

I 飯山市の風景の現況と特性

1. 風景の骨格と特性

風景の骨格を形成しているものを、その性質によって4つの類型に整理します。

(1) 領域を縁取る風景

■山並みと山裾斜面に縁取られた風景

風景的な領域を限定する要素とし、山並みや台地及びその斜面の緑が“縁”となります。飯山市の西側では、斑尾山から鍋倉山方面に山並みが連なり、秋津や飯山の市街地、柳原・外様・太田地区の風景を縁取っています。東側では、高社山から万仏山、そして栄村に向けての山並みが、木島や瑞穂地区の風景を縁取っています。この縁取りとなる山裾の斜面には、自然豊かなふるさと風景の背景となっています。



山並みの緑を背景にした田園集落（瑞穂）

(2) 連続する風景軸（奥行やつながりを感じる道）

■山並みや千曲川、田園などの良好な風景が眺められる道

骨格的な風景軸となる道は、人々に無意識のうちに周辺地域とのつながりや奥行を感じさせ、空間を認識する手がかりとして重要な要素となります。市内の主要な道路の多くは、山並みや千曲川、そして田園風景など、沿道からの良好な風景や眺望が得られます。特に国道117号やみゆき野ラインからは、視界がひろがり飯山らしさを感じる風景に出会うことができます。



国道117号の風景（道の駅「花の駅・千曲川」前）

■豊かな水辺を感じられる千曲川の風景

飯山盆地を貫流する千曲川は、飯山市全体の背骨となる風景軸になります。市街地に近い河川敷は、レクリエーションの場として市民に親しまれています。また、豊かな水の流れは、周辺の田園風景と共に、飯山盆地の豊かさを連想させてくれます。飯山市を題材とする風景の絵画や写真には、千曲川が無くてはならない要素になっています。



千曲川と国道117号の風景

(3) 建物の集積、広がりやまとまり

■市街地、寺院群、集落などによるまち並みの風景

現在の市街地は、飯山城を核とした町割と、豪雪地での生活の知恵をとして発達した雁木づくりが基礎となっています。愛宕町は、江戸時代の寺院群を背景に仏壇街としてまちが集積し、歴史的な雰囲気を持つまち並みが形成されています。昔ながらの雁木様式は、愛宕町を除いて殆どが姿を消し、本町などは近代的なアーケードによりまち並みが形成されています。



中心市街地のまち並み風景

■田園や雪原の広がりや集落の風景

飯山市では、早くからほ場整備や国営農場の整備に取り組んだため、郊外や段丘地にまとまった農地が広がっています。この場所では、視界が広がるため、周囲の山並みや緑を背景に、冬の雪原、春から秋にかけて表情を変える水田、菜の花畑など四季折々の雄大な風景をつくり出しています。また、周辺にある集落の家並みとともに、“ふるさとの原風景”と呼ばれる風景を創りだしています。



田園が広がる風景（太田）

■森林が広がる山地の風景

斑尾山から鍋倉山方面の山並みなどには、緑豊かな森林が広がっています。この山地では、新緑や紅葉など四季折々の自然景観を見ることができます。また、富倉地区のように自然と一体化した集落の営みの風景をみることができます。



雪原が広がる風景（太田）



山地に囲まれた集落（大川）

(4) 目印や方向が分かる風景

■飯山らしい眺望風景

良好な風景を眺められる道や広がりある田園が多く存在することは、そこからの良好な眺望風景も多く存在することを意味しています。そこに映し出されるシンボリックな山や千曲川などは、人が移動する際の方向を教えてください。



国道 117 号からみた高社山

■シンボルとなる建造物や樹木など

市街地では、市役所や日赤病院、飯山シャンツェに加え北陸新幹線飯山駅などの建造物が目印（ランドマーク）としての役割を果たしています。また、千曲川にかかる橋は、それぞれが特徴的な形態を持っているため、周囲の風景を印象付けることに貢献しています。



飯山城址公園の復元された南中門

2. 風景の基本構造

骨格的な風景の特性と、平地・丘陵・山地といった地形的特色や土地利用の特性等から、風景的なまとまりのある地域を明らかにします。

(1) 風景の基本構造

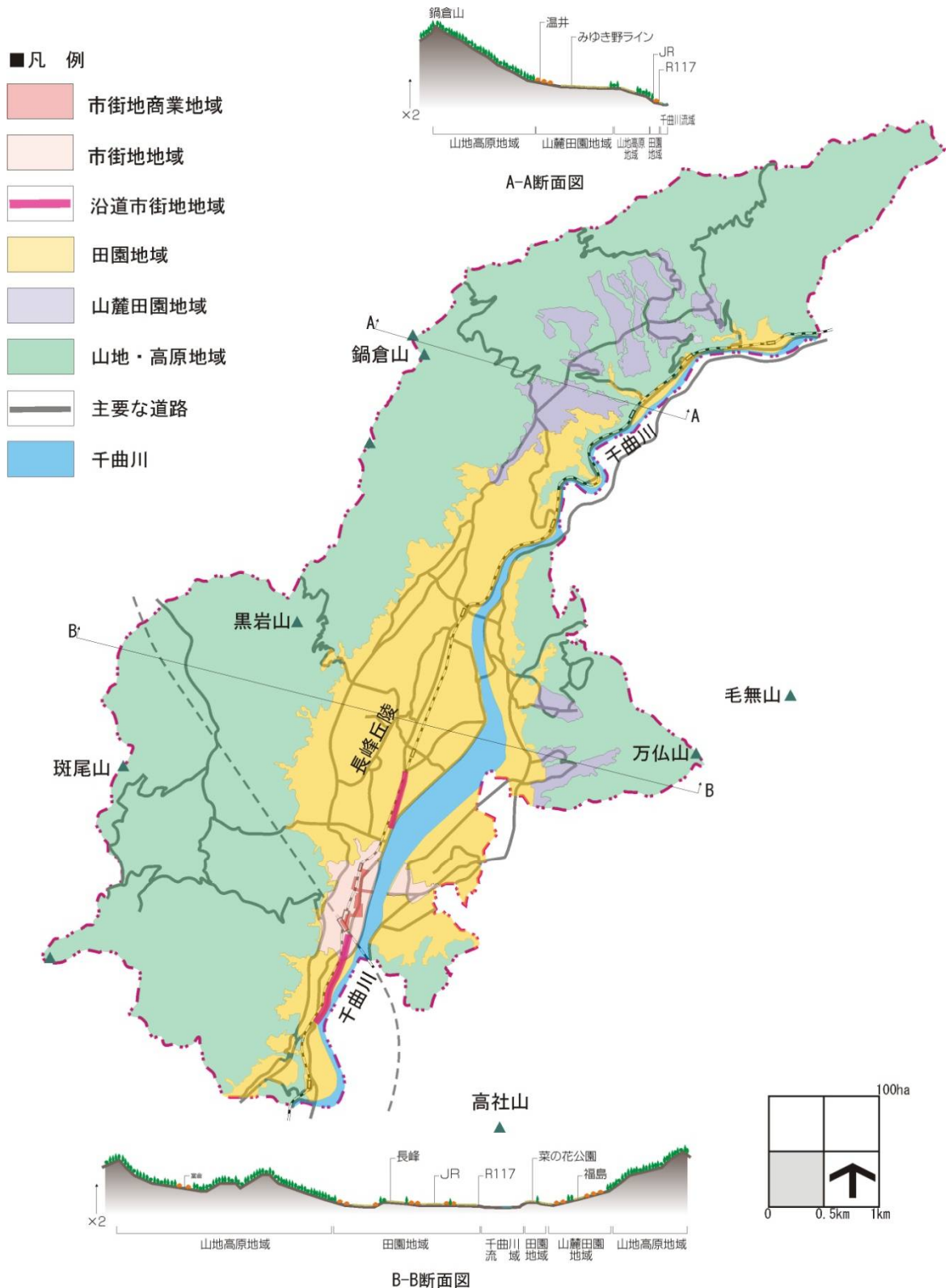
風景の骨格を形成している4つの類型を風景の基本構造図として示します。



図一 風景の基本構造

(2) 6つの風景地域

風景の基本構造図より、平地・丘陵・山地といった地形的特色や土地利用の特性等から、風景的なまとまりのある6つの風景地域を示します。(風景地域の特性等は、IV風景づくりのための行為の制限に掲載)



図一 風景の地域区分